

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003001	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	姉川 雄大		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	姉川 雄大		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	姉川 雄大		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	anegawa[at]nagasaki-u.ac.jp [at]は@		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟12階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2928		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールでアポイントをとってください		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	特定の教科書を用いないが、必ず参照する資料はいくつかあるので、授業内およびLACS経由で配布する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	回と内容について一部入れ替えがありうるので、LACS等でのお知らせに注意しておくこと。また、10回目以降について「グループワーク」の形式をとるかどうかは変更の可能性がある。
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエスチョンへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業（対面）： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003002	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー（多文化） / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
授業担当教員名（科目責任者） / Instructor in charge of the course	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
授業担当教員名（オムニバス科目等） / Instructor(s)	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等） / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	aynacaynye▲nagasaki-u.ac.jp（▲を@に変更）		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟10F		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時。事前Eメールで事前に日時を相談してください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック [5訂版]』世界思想社、2021年		
受講要件（履修条件）/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチエスチョンへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003003	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー（多文化） / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	西田 充		
授業担当教員名（科目責任者） / Instructor in charge of the course	西田 充		
授業担当教員名（オムニバス科目等） / Instructor(s)	西田 充		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等） / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	michiru.nishida▲nagasaki-u.ac.jp（メールをする際は、▲を@に置き換えてください。）		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟2階(202)		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにてご相談ください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	体調不良等のやむをえぬ理由で欠席するときは、事前に担当教員に連絡してください。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	西田 充 / 外務省で25年間、外交官として、またそのほとんどの期間を軍縮不拡散専門官として国際的な軍縮不拡散関連の様々な交渉や協議に関わった。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエストへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエストとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003004	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMIR		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	cmplrad[at]nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Office	多文化社会学部11階		
担当教員TEL / Tel	2944		
担当教員オフィスアワー / Office hours	木曜日12時~12時50分(不在の場合もありますので、予めeメールでアポを取って下さい)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	参考書 / Materials 教科書は指定しない。授業で適宜に資料を配付する。 参考書は次の通り。 戸田山和久『新版 論文の教室』NHK出版、2022年。 ほかには例えば： 岩崎美紀子『「知」の方法論 ―論文トレーニング』岩波書店、2008年。		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業（対面）： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003005	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	王 維 / Wang Wei		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	王 維 / Wang Wei		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	王 維 / Wang Wei		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	wangw@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟10階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2913		
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時。事前メールでの連絡が必要。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	松本茂/河野哲也(2012)『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチエスチョンへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003006	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	河村 有教		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	河村 有教		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	河村 有教		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	kawamura▲nagasaki-u.ac.jp(▲→@)		
担当教員研究室 / Office	総合研究棟(多文化社会学研究科・多文化社会学部)11階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2953		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールにてアポイントを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☒ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		

教科書・教材・参考書/Materials	【教科書】下記の と を準備してください。 T・W・クルーシアス=C・E・チャンネル(杉野俊子他訳)『大学で学ぶ議論の作法』(慶應義塾大学出版会, 2004年) 漢字文献情報処理研究会編『大学で学ぼうー知のスキルアップ15』(好文出版, 2013年) 【参考書】 ・戸田山 和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHKブックス) ・石黒 圭(2012)『論文・レポートの基本』(日本実業出版社) ・山内 志朗(2001)『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社) 参考書は多文化社会学において推奨されている書籍です。図書館等で各自借りてみてください。 選択した教科書に含まれない要素については担当教員の方で、プリント配布等によって補う。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに: オリエンテーション(対面) 授業: 担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる(対面) 授業: 質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習: 卒業までの学びの設計図を描く→時間外: 個人面談、いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎(対面) 授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習: 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー(対面) 授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ授業(対面): 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す(対面) 授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面) 授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習: 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り(対面) 授業: 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習: 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解

第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003007	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	TOET RUDY		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	TOET RUDY		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	TOET RUDY		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	rudytoet▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟5階ライティングセンター・留学相談室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の直後またはメールにて質問を受け付ける。メールによりアポイントメントを取ることもできる。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しない。授業で適宜に資料を配布する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチエスチョンへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003008	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー（多文化） / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名（科目責任者） / Instructor in charge of the course	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名（オムニバス科目等） / Instructor(s)	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等） / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	a.guelbeyaz▲nagasaki-u.ac.jp（メールをする際は、▲を@に置き換えてください。）		
担当教員研究室/Office	多文化社会学部2号館（総合教育研究棟）12F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2905		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールで連絡し、アポイントメントをとること。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	Bailey, Stephen. (2021). Academic Writing for University Students. Routledge 戸田山 和久 (2012) 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで(NHKブックス) 石黒 圭 (2012) 『論文・レポートの基本』（日本実業出版社） 山内志朗 (2001) 『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社）		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003009	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	李 頌雅 / LEE SONG YA		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	李 頌雅 / LEE SONG YA		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	李 頌雅 / LEE SONG YA		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	sylee@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟11階 李研究室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2918		
担当教員オフィスアワー / Office hours	金3-4限 (なるべく事前にメールでアポイントメントをとってください)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	【参考書】 授業中に適宜資料を配布します - 石黒圭(2012)『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社 - 井下千以子(2019)『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会 - 高崎みどり(2010)『大学生のための「論文」執筆の手引: 卒論・レポート・演習発表の乗り切り方』秀和システム - 細川英雄(2008)『論文作成デザイン: テーマの発見から研究の構築へ』東京図書		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。最初の回に授業計画を説明しますが、状況によって変更する場合もあります。その場合は別途メールなどで連絡します。
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチエスチョンへ（対面） 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する

第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習：調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習：グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20240581003010	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	森 元斎		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	森 元斎		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	森 元斎		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	motonaomori@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Office	総合研究棟12F		
担当教員TEL / Tel	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールにて連絡すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	適宜資料配布します		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	特になし		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチエスチョンへ授業（対面）： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（対面） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（対面） レポート作成